資料　4

ふれあいバス見直しの方向性

平成２２年１１月２５日

ふれあいバス見直しの方向性

現状

猪名川町の現況

- ○ 平成2年に比べて平成22年の高齢化率は約6%増加の 18.8%に。北部地域では、平成22年の高齢化率が25.4%と南部地域より約8%高い。
- ○ 町南部の主要地方道川西篠山線（猪名川バイパス）の開通に伴い、路線バス（阪急バス）のネットワークが充実。

ふれあいバスの現状

- ○ 利用者は、増加傾向にあるが、南部2コースの利用が最も少ない。
- ○ 平均乗車密度は、県内37のコミュニティバス事業中、19番目で低い（平成18年度）。
- ○ 収支率は、高齢者（町内在住の70歳以上）と障がい者の運賃無料化実施以降、年々減少傾向。利用者が少ない南部2コースの収支率が平成21年度で約2.8%と最も低い。
- ○ 収支率は、県内37のコミュニティバス事業中、30番目で低い（平成18年度）。
- ○ ふれあいバスの運行所要時間が長い。
  北部1コース：杉生新田～日生中央間が約96分、北部2コース：柏原～日生中央間が約94分、
  南部1コース：千軒～ふるさと館間が約100分、南部2コース：伏見台五丁目～ふるさと館間が約93分

乗降実態調査結果

- ○ コース別利用者数は、南部1コースが 170人と最も多く、次いで北部 1コースと北部2コースがともに161人、南部2コースが最も少なく 99人。
- ○ コース別平均乗車密度は、南部1コースが最も多く0.84 人/km 、次いで北部1コースが0.75 人/km 、北部2コースが0.70 人/km 、南部2コースが0.50 人/km。
- ○ 運行便別でみた利用者数は、各コースともに午前中に始発バス停を出発する便が、午後に始発バス停を出発する便と比べ多い。
- ○ バス停乗降車数は、「日生中央」が 209人と最も多く、次いで「ジャスコ猪名川店」が 165人、「ゆうあいセンター」が 127人。
- ○ 調査期間中におけるバス停乗降車数が0人のバス停は、33バス停。

住民アンケート結果

- ○ 普段の公共交通の利用状況は、「全く利用しない」が全体の約31%を占め最も多い。北部地区では、公共交通を「全く利用しない」が全体の約46%を占める。
- ○ 利用状況は、「利用したことがない」が全体の約79%。「この1年間で利用した」が約14%。
- ○ 利用頻度は、「年に数回程度」が全体の約33%を占め最も多い。次いで、「月に1～2日程度」が約25%、「週に2～3日程度」が約23%。
- ○ 利用しづらいと回答している割合が高い項目は、「バスの走る本数」が最も多く、次いで「バスの乗車時間」、「バスの走っている時間帯」、「バスの運行ルートやバス停の位置」、「バス停施設（ベンチや屋根）」。
- ○ 改善ニーズは、「バスの走る本数」が最も多く、次いで「バスの走っている時間帯」、「バスの乗車時間」。
- ○ 目的地までの乗車可能時間は、「21～30分」が最も多い。
- ○ 利用しやすいと回答している割合が高い項目は、「バスの運賃」が最も多く、次いで「バス停での乗り降りのしやすさ」。
- ○すこやかカード保有者の運賃無料については、「「すこやかカード」が利用できることは高齢者に喜ばれており、続けるべき」が全体の約66%を占め最も多い。
- ○ ふれあいバスの運行に肯定的な回答（もっと運行すべきと現状でよいの合計）は、全体の約69%を占めている。
- ○ 10年後のふれあいバスの利用の有無は、「利用する」が全体の約45%を占め最も多い。

課題

- ■ 自動車利用できない人が多い高齢者に対するモビリティの確保
- ■ 利用者が少ない南部２コースの路線再編
- ■ 年々減少傾向にある収支率を改善
- ■ 各地域から中心部等への所要時間および運行距離を短縮するためのルート等の見直し
- ■ 利用者ニーズに対応したダイヤの見直し
- ■ 利用者が少ないバス停を運行するルートの見直し
- ■ふれあいバスの利用促進
- ■ 利用者ニーズに対応した運行本数の見直し
- ■ 持続可能な交通システムとするための料金負担や財政負担のあり方についての検討

見直しの方向性

- ◆充実した路線バスネットワークと重複し、利用者が少ない南部２コースの運行ルートの見直し
- ◆各地域から中心部等への所要時間（運行距離）の短縮に向けた運行ルートの再編
- ◆利用者が少ない時間帯を運行するダイヤの見直し
- ◆利用者が少ないバス停を運行する区間を対象とした運行ルートを短縮する等の見直し
- ◆住民の９割以上に認知されているふれあいバスを実際に乗車してもらう利用促進の実施
- ◆各ルートの運行所要時間（運行距離）の短縮の結果により、可能な範囲での運行本数見直しを実施
- ◆収支率を改善させ、持続可能な交通システムを構築するため、料金制度の見直し（すこやかカードを無償化から割引料金の負担へ）